

K

「楓の風」らしい看護の取り組みを発信



在宅療養支援

楓の風

KAEDE TIMES 2025



在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤

ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「**楓の風**」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介します、ニュースレターをはじめました！



Case 3

2025 Vol. 3

認知症の周辺症状（BPSD）の背景には、必ず本人なりの理由があります。
今回ご紹介するのは、介護拒否や徘徊といった症状に直面しながらも、チーム全体で「安心感をつくる」ことを大切にされたT様の事例です。
安心材料を一つひとつ積み重ねることで、穏やかな日常を取り戻すことができました

ケース

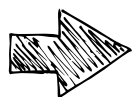
認知症の周辺症状により、ご家族様も疲弊...訪問看護にヘルプ依頼が

T様は90代前半、アルツハイマー型認知症と脳梗塞の既往を持つ男性です。
入院後の退院直後から介護拒否や暴言・暴力が強く、オムツ交換や清潔ケアに激しい抵抗を示していました。ご家族も対応に疲弊し、訪問看護の依頼が入りました。

「なにをするんだ！」 「痛いから触るな！」 ...暴言と拒否感の背景は？	抵抗感の裏にあったのは、 「なにをされるかわからない恐怖心」「入院中の抑制体験の記憶」 私たちはまず、「安心感」を抱いていただくことを最優先に、 関わりやお声掛けの方法を変化させていきました。
--	---

具体的な関わりとケアの工夫

- ・初回から **2名体制で訪問**。安全を確保しながらケアを継続
- ・ケア後には必ず、「ありがとうございます！」と **感謝の言葉を繰り返しお伝えする**
- ・協力的な動作が得られたら、「**〇〇さん、素晴らしいです！**」と言葉にする
- ・ **リアクションは大きめに！**「ご本人のつらい気持ちに寄り添う様子」を印象的に！
- ・ **「正しく行う」よりも、「楽しい時間にする」**ということを意識する
- ・拒否される中でも、「**小さな承認体験**」を積み重ねる。
- ・拒否の強さや発言の背景をアセスメントし、**関係各所に共有**

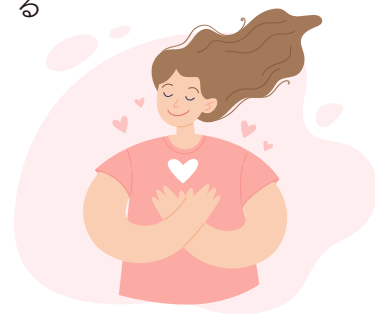


拒否から協力へ！

問題行動ではなく、SOSと捉える

私たちは、認知症の方のADL拡大による徘徊や興奮を、
「**不安や環境変化からくるSOS**」と捉えます。
薬物療法だけでなく、ケアの中での工夫や細やかな声掛けから、
安心感を持っていただくことの力を感しました。

ちなみにT様、1年4ヶ月後には、リスパダールを飲まなくても
興奮をしないまでに安定され、**ご家族と買い物や散歩を楽しめるま
でなられ、さらなるADL拡大を目指しています！**



在宅「療養」支援

